



発行
天理教本愛大教会

〒 453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒 632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

諭達発布受け 本部巡教

本部准員・諸井道隆先生

昨年10月26日に発布された「諭達第四号」を受け、各直属教会を対象にした本部巡教が1月12日、大教会で行われた。当日は本部准員・諸井道隆先生が登壇し、諭達の内容について詳しく話された。

本部巡教は、昨年の本部 秋季大祭で真柱様から「諭達第四号」が発布されたことを受け、その詳しい内容はもとより、そこに込められた思いについて、すべて

のようぼく・信者が理解を同じくし、心を一つに年祭活動を進めることを目的に、各直属教会を対象にして行われているもの。

本愛大教会では、1月12

YouTube
本愛誌読者限定
で公開中

1月12日開催
諭達本部巡教



諸井道隆先生
本部准員
山名大教会長



※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。
※本愛誌の読者限定で公開している動画ですので、チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

活動目標と記念祭執行を発表

大教会の立教186年の春季大祭は13日、厳かに勤められた。また、これに先立つ12日には教会長年頭連絡会が行われ、教祖140年祭と来年の大教会創立110周年に向けた活動目標、ならびに記念祭執行の日付等が発表された。

大教会では、来年初立110周年を迎える。連絡会では、立教187年6月23日(日)に真柱様ご夫妻、大亮様ご夫妻のご臨席を仰ぎ、記念祭

を執り行う旨が大教会長から発表された。それに伴い、新たな活動目標が発表され、各教会にポスター(写真左)が配布された。

今日の教会長年頭連絡会に引き続き行われ、本部准員・諸井道隆先生が講師として登壇された(内容はすべて左記のQRコードから動画で行われる。)

ご覧いただけます。
なお、この本部巡教を受け、大教会の部内教会に対しても今後順次、諭達巡教が行われる。

つながる、
つなげる。

おやさまと共に、
あなたらしく、自分らしい道を歩む。
おぢば、教会へ足を運ぶ。
新しい縁をつくり、
目の前の人を大切にす。

天理教本愛大教会

2月のこよみ

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
女子青年例会	11日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
子ども食堂MOGU	17日	午後5時
ほんあいOKEIKO	19日	午前10時
婦人会例会	20日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



調べてみると明治33年の「みちのとも」にこのような記述がありました。

「石や木を持運んで、教祖の御廟を築いたり……」

私が調べる限り、これが最も古い「教祖」の表記かと思えます。

この連載を動画でも続けられている中で、視聴者の方からコメントや質問を頂くことが増えてきました。今回は、それらの質問の一つに答えてみたいと思います。

【質問】教祖140年祭活動が始まり、ポスターなどを見かける中で「教祖」という表記が気になりました。教祖と書いて「おやさま」と呼ぶようになったのはいつからなのでしょうか？

お道を信仰する私たちにとって「おやさま」という言葉はとても身近な言葉ではありませんが、一般的にはこのような読み方はしませんし、疑問に感じるのも無理はないと思います。



「教祖親様にいよく御存命同様の奉仕をさして頂ける」
これ以外にも、明治から昭和初期にかけては、文献によって「御教祖」

「教祖様」など、さまざまな表記や呼び方がされていたことがわかります。

一方で、御在世当時から中山みき様を「おやさま」と呼び親しむことは一般的だったようです。古い先生によれば多くの人が「おやさま」「かみさん」などと呼んでいたそうです。

また、親神様のことを「親様」と呼んでいる明治14年の文献もありました。

表記は変わっても

いずれにせよ、さまざまな呼び方、書き方が混在していた状況に鑑み、中山正善・二代真柱様(写真)は昭和24年の「教典」公刊に際し、表記と呼び方の統一を図られました。そのことを『続・ひとことはなし』でこのように振り返っております。

「このたびの教典で『教祖』と書いて『おやさま』と訓むように仮名をつ

けました。(中略)私たちが天理教徒の『おや』であるとの親しみを増したいがためであります。(中略)常に各々の身辺にあって、その成人を見守っていて下さる『おや』であるとの懐かしみを強めたいためでありました」

「目から来る親しさと、耳から来る和やかさとを合せ用い、親と子の親しみを復元の期に呼び戻したいと思つたからであります」

呼び方というのは、呼ばれた相手だけでなく、呼ぶ側にも親しみの情などを与えるものだと思います。

日本語が変化するように、これから教祖の表記も変わっていくかもしれません。けれども、「おやさま」を私たちに心の中で呼び親しむことは、忘れてはならないことでしょう。年祭活動の始まりに当たって、そのように感じます。

立教185年(令和4年) 年間教務統計

初席者

本築	1	本正義	4
本晃	1	本金山	1
本心	6	本愛岐	1
本濱松	1	本愛正	1
本則武	1	本愛岳	6
本山王	3	本愛中	1
本實愛	1	本美咲	1
本仁愛	1	本豊國	1
本海部	1	以上32名	

おさづけの理拝戴者

本築	2	本愛湊	2
本穂	2	本今村	1
本心	1	本愛中	1
本仁愛	1	本愛濃	2
本御重	1	本尾愛	3
本桑名	1	本春明	1
		以上18名	

修養科修了者

本心	2	本今村	2
本孝徳	1	本愛勢	1
本信義	1	本春明	2
本理愛	1	以上10名	

教人登録者

本知	1	本喜愛	1
本枇杷島	1	本理愛	1
本孝徳	1	以上5名	

教理随想

言わん言えんの理を探る



教祖がお姿を隠された元一日に由来する春季大祭が厳かに執行され、教祖年祭へ向かう三年千日の歩みが始まりました。その一年目である今年、大教会から「今日を陽気に。つながる、つなげる」との目標が打ち出されました。そこで「つながぎ」について教理的に考えてみたいと思います。

*

人の幸福を考える時、縁というものを抜きにして考えることはできません。夫婦の縁、家族の縁、仕事上の縁、そして金銭との縁等々。

【第 98 回】

感謝の心と報恩の眞実が良きつながりの種となる

自分が望む縁と思うようにつながり、望んでいない悪縁が切れる時、心は幸福感到に満たされます。これが逆に作用すると、その人生は辛く厳しいものになるといわざるを得ません。

もちろん縁は自分で選ぶこともできますが、それは縁の表面的なごく一部を選んでいかにすぎないのではありませんでしょうか。たとえば相手の人格のすべてを知って結婚する人はいないし、進学や就職にしても、学校や職場をある程度選ぶことはできて、そこで出会う教師や友人、上司、同僚までを選ぶことはできません。つまり良き縁がつながって悪い縁が切れるという幸せな人生を歩む上で、人間の

知恵と力はごく一部にしか及ばないのであって、あとは親神様のご守護によるものと考えるのが信仰の道であります。

教祖は「十全の守護」の中で、縁をつなぐ働きに「くにさづちのみこと」、また切ることに一切の働きに「たいしよく天のみこと」との神名をつけてご教示くださいました。この両者の働きをいかにバランスよく、タイミングを外さずにいただくかによって人生の味わいが違ってきます。

つなぐことと切ることとは正反対の働きです。しかし「二つ一つが天の理」との教えに従えば、どちらか一方だけに焦点を合わせてご守護を願う道は、天の理に

適いません。そうではなく、つなぎの守護を願うならば切れることを、切れる守護を望むならばつなぐ道を、というように、常に相対する働きを視野に入れて考える姿勢が天の理に沿う道です。そして最も肝腎な点は、心使いの中心に親神様への深い感謝の念を据えることでもあります。

たとえば物を接着する時や切り傷を治療する時には、必ず切り口をきれいにし、後のつながりが良くなることを考えます。これと同じで、人生でも、結婚や就職退職などという節目や切れ目には深い感謝を捧げ、また日常生活では一日の区切りである朝と夕べに感謝の心でおつとめを勤める。この実行によって一つ一つの切り口がきれいになり、その後の人生のつながりが良くなる。これが天然自然の摂理なのです。さらには、報恩の真心で

教祖に心をつなぎ、悩む人に対しては、おたすけの心で縁をつなげる。この実行を積み重ねる中に、「十全の守護」によって、良縁に恵まれ、悪縁が断ち切れる姿が現れます。つまり「つながる、つなげる」とは自分自身の人生のためであり、知恵と力の及ばないところで教祖のお働きを頂戴するための信仰の種まきということになります。

具体的にどんな形で教祖につながるか、また誰に何を つなげるかは一人一人に委ねられます。おたすけや布教という視点から実行する場合もあれば、もっと気軽に仲間作りを始めるケースもあるかもしれません。いずれにしても、今日まで培った感謝と報恩の信仰をベースとして、「つながる、つなげる」を日々実行していきましよう。これが現在の時旬の最もたしかな歩み方であります。

大教会人事

令和5年1月13日付

伊藤 寿輝
細川 明
松原 悟
長江 邦彦
山本正太郎
右、大教会役員を命ずる。

修養科生教養掛

第976期
10月 吉田 優子(本鈴鹿)
11月 水野よしゑ(本正行)
12月 安藤美恵子(本則武)
右の各氏が教養掛を務めた。

教会長資格検定講習会

修了者
(令和4年12月17日付)
本美幸 大橋善太郎
以上1名

教会長資格検定合格者

(令和4年12月18日付)
本美幸 大橋善太郎
以上1名

第127回教人資格講習会

修了者

(令和4年12月11日付)
本孝徳 上野勇一郎
以上1名

修養科第976期修了者

本今村(本知立) 山田 陽菜
以上1名

12月のおさづけの理拝戴者

本穂 黒川 竜椰
以上1名

12月の初席者

本仁愛 伊藤 直
以上1名

立教185年秋のひのきしん

おちばがえり帰参者数
9月 98名
10月 487名
11月 184名

総会開催

婦人会本枇杷島委員会(青木奈美子委員長)では、12月18日午前11時より、安

藤くみ子・前本愛支部長を迎えて、同分教会において「第24回婦人会総会」を開催した。

お出直し

大倉八郎氏(大教会役員・本一心分教会三代会長・本美幸分教会初代会長)

12月26日に出直された。享年82歳。告別式は12月29日午前11時より大教会前会堂を齋主として執り行われた。

YouTube 大教会公式チャンネルで限定公開中
12月神殿講話 西浦正親氏
教会本部ようぼく チューリッヒ保険会社CEO
※QRコードを読み取ってご覧ください。チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

大教会日誌

令和4年12月25日~令和5年1月24日

12月

- 26日 本部月次祭
28日 餅つきひのきしん◇青年会例会
29日 年末清掃・迎春準備ひのきしん 常任役員会議◇役員会議
31日 大祓式

1月

- 1日 元旦祭
祭主・大教会長 扨者・田中新一、加藤成幸
指図方・安藤正二郎 賛者・山本正太郎、久保真樹
◇大教会長挨拶
2日 よふき会初例会
5日 本部お節会(7日まで)
12日 常任役員会議◇教会長年頭連絡会

- 12日 諭達本部巡教
講師一諸井道隆先生(本部准員・山名大教会長)
13日 春季大祭
祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、野田正道
指図方・安藤正二郎 賛者・出口邦郎、佐藤幸一郎
◇祭典講話一大教会長
青年会初例会
14日 布教実修所
15日 ほんあいOKEIKO(参加者15人)
16日 むつみ会初例会
17日 こども食堂MOGU(参加者50人)
20日 婦人会初例会
こはる会初例会
女子青年初例会